



2013.10.7 No.41

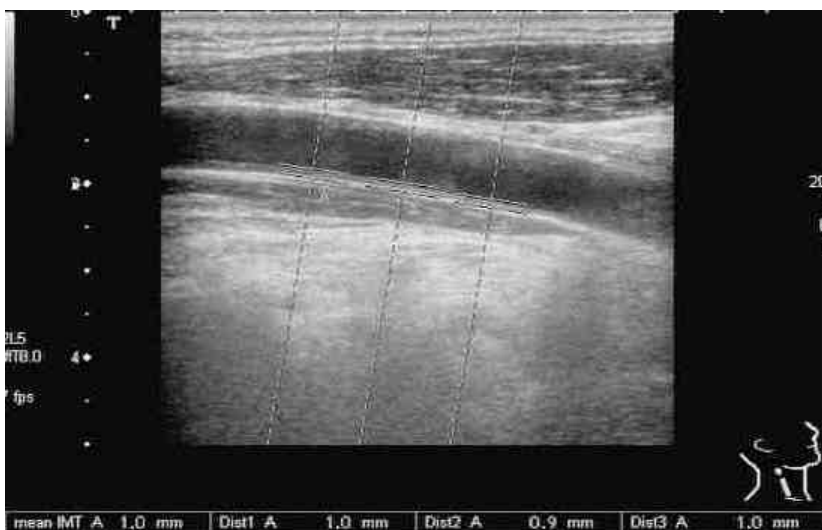
J A 静岡厚生連 清水厚生病院医療協力部門

頸動脈エコーについて

<はじめに>

頸動脈エコーとは高周波の音波(超音波)を首に向け、跳ね返ってくる反射波(エコー)を画像化して頸動脈を見る検査です。頸動脈エコーは全身の血管の動脈硬化の代表としてよく観察できる検査です。頸動脈は心臓から脳へ血液を送る血管で左右に1本ずつあり、動脈硬化が進むと脳梗塞や心筋梗塞を起こす危険性が高くなると言われています。

<IMT について>



IMT とは Intima! Media Thickness の略語で内膜中膜複合体厚のことを言います。 上図

の頸動脈の画像で計測している頸動脈の壁の厚さの 3 点の平均を平均 IMT と呼びます。全身の血管の中でも頸動脈は動脈硬化が最も起こりやすい血管であり、エコーで見やすい血管でもあり、IMT の厚さは体全体の動脈硬化と比例して厚くなることがわかり、動脈硬化の程度を判定する重要な指標となっています。この数値が 1.1mm を超えると脳血管障害（脳梗塞や脳出血など）と虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞など）の発症率が高くなるとされています。生活習慣病である脂質異常・糖尿病・高血圧・メタボリックシンドローム予備軍の方々は定期的に頸動脈エコー検査をしていくことが重要となってきます。

< 頸動脈エコーの利点 >

頸動脈エコーは仰向けに寝て首にゼリーをつけプローブというものを首の部分にあて左右を検査し、数分で検査自体は終わります。また、超音波検査はレントゲン被ばくがなく、基本的に人体に無害なので定期的に繰り返し検査が可能で頸動脈の狭窄（血管が細くなっていること）の有無やプラークの有無がわかります。

プラークとは血管壁が限局性に盛り上がってきた隆起性病変のことで年齢と共に血管壁にプラークが付着します。また、生活習慣病などの脂質異常症がある方はより発生しやすくなると言われています。そのプラークの種類もソフトプラークかハードプラークかエコー検査でわかります。また、ソフトプラークは脳に飛びやすくより脳梗塞を起こしやすいと言われています。高脂血症、高血圧、高尿酸血症、糖尿病、メタボリックシンドロームは動脈硬化の危険因子となります。これらの生活習慣病を有する人は動脈硬化が高い確率で見られることから一度頸動脈エコー検査をおすすめします。詳しくは当院内科外来にお問い合わせ下さい。

内頸動脈内のソフトプラーク(下図の矢印)

